

Q 船の速さは、どういふふうに表示のすか？



A 自動車の速さはキロメートルで表しますが、船の場合は「ノット」という単位を使っています。1ノットとは、1時間に1海里（1852m）進む速さのことです。速力は船の種類によって違いますが、客船はおよそ15～23ノット、コンテナ船では25ノットくらいです。ですから25ノットで8時間走ったとしたら、この船は、 $1852\text{m} \times 25 \times 8$ で370,400m、約370キロメートル進んだこととなります。

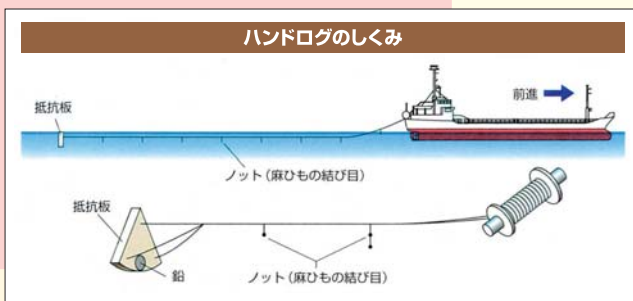
Q 昔の人はどうやって船の速さや海の深さをはかっていたのすか？



A 今は速さは速度計で、海の深さは音波探知機おんぱたんちきといって、海底に音波を出して、はねかえってもどってくる時間を計算してはかりますが、そういう機械がない昔、船の速度や海の深さはすべて人の手（ハンド）ではかりました。

走る船から長いロープにむすびつけた扇形の板（ログおうぎかた）を海中に投げこむと、ロープはどんどん出ていきます。砂時計ではかった時間と出たロープの長さから、船の速度を知る方法です。また、深さをはかる時は、船から鉛なまりの重り（レッド）をつけたロープを海底につくまで下ろして、のびたロープの長さで深さをはかります。

速度をはかる道具をハンド・ログ、深さをはかる道具をハンド・レッドといいます。



Q 広い海の上で、自分の船の位置をどのようにして知るのすか？



A 昔行われていたのは、昼間は太陽、夜は恒星こうせい（位置をほとんど変えず自分で光を出す星のこと＝小さな太陽）を利用するやり方です。六分儀ろくぶんぎとよばれる計器で太陽や星の角度をはかり、いろいろな計算によって自分の船の位置（船位）を見つける方法です。天文航法とよばれています。

今では、自動車のカーナビのように、衛星えいせいを利用して船位げんざいを知ります。しかし、現在でも、航海士は、電子機器でんしきが故障した時にそなえて、六分儀の使い方と天文航法を習得しています。何千年も昔の古代人も、太陽や星の位置をたよりにして、航海していたといわれています。

